

## 石といわれているもの(岩石と鉱物)<sup>がんせき こうぶつ</sup>

自然<sup>しぜん</sup>にある石といわれているものを大きく分けると、岩石と鉱物に分けられます。たとえば石川の大地をささえているおまな岩石は花崗岩<sup>かこうがん</sup>のなかまです。この岩石は白っぽい石英<sup>せきえい</sup>と長石<sup>ちようせき</sup>・黒っぽい黒雲母<sup>くうんも</sup>とかくせん石という鉱物でできています。鉱物とは岩石をつくっている石のことです。石川町には、花崗岩のなかま<sup>けっしょう</sup>で特に結晶の大きい巨晶花崗岩<sup>きょしょう</sup>(ペグマタイトという)の岩石<sup>みやく</sup>の脈があって、この中の大きな石英と長石が昔たくさんほり出されました。ペグマタイトの中には、めずらしい鉱物がたくさんはっています。



### 石川町の大切な産業だった鉱山<sup>さんぎょう こうざん</sup>

大正時代<sup>たいしょうじ だい</sup>から昭和40年代<sup>しやうわ</sup>ごろまで、石英(けい石)と長石をほった鉱山が町にたくさんありました。

- 石英——ガラス・レンズの原料<sup>げんりよう</sup>になります。
- 長石——せと物のうわぐすりになります。

町の多くの人が、鉱山にかんけいする仕事についていて石川の鉱石は全国に売り出されました。